

#### 4年生から6年生までの3年間、P4Cをしてきた子どもの感想

「わたしは、対話の時間が大好きです。なぜなら、あんなに自由に学校でそして授業で話せる時間っていうものは、ほかにはない大切な時間だとわたしはおもいます。そしてみんながみんな自分だけの意見をもって、どんなにくだらないことも楽しくしてみんなの友情をかんじるし、この対話の時間ででた問いもすごくおもしろく、こせいが出ていていいと思ったし、この対話はわたしたちだからそこできると思うし、対話の授業では、自分という自分のすがたを現すこともできるすてきな時間でした。とても心に残る楽しい時間でした。対話の時間にありがとう、そして、そんな楽しい授業をわたしたちにおしえてくれた先生にありがとうございました。」

「世界を広げる」

私が「対話」を知ったのは5年生のときでした。最初は、「これが授業でいいの？」と思わずおどろいてしまいました。でも、一つの間いをやっていくうちに、だんだん深くなり、考えが変わったり、発見があったりしました。中でも印象に残っているのは。「親友」についての問いでした。

私は今まで自分のもっている「固定概念」にとらわれているところがありました。でも対話をして「自分の見ていた世界」はせまいな、と思いました。そして自分は「せまい世界」を見て、「少ない意見」で判断していた、と。だから対話は私にとって新しい世界を見ること、自分の世界を広げることなのです。」

一つ目のコメントは、対話の時間ではあまり発言はなく、わりとじっくりと聴いていることが多かった女の子です。「自分という自分のすがたを現すこともできるすてきな時間」という部分が興味深いなと思いました。

二つ目のコメントは、対話の時間には必ず発言し、またよく聴いていた女の子のものです。やや表現が固いので、この子の実感とどれほど重なっているのかなと思うところはあるのですが、大切なことが書かれているように思っています。